

「自然体験活動指導者養成研修（全体指導者）」

〈文部科学省委託事業〉

平成 23 年 11 月 3 日（木）～5 日（土）2 泊 3 日（全体）

平成 23 年 12 月 3 日（土）～4 日（日）1 泊 2 日（フォローアップ）



I 事業の背景（必要性）

平成 20 年 3 月の学習指導要領の改訂にともない、「生きる力」の育成という教育理念の継承とともに、「体験活動の充実」が提示された。特に小学校段階においては、自然の中での集団宿泊活動を重点的に推進することが望まれるとあり、また期間も一定期間（一週間程度）にわたって行われることが望ましいとされています。しかし、先生方は長期宿泊体験の意義を理解しながらも、実施については困難であると考えています。授業時数の確保や健康面の心配も課題ですが、特にプログラムの企画や自然体験活動の指導への課題が考えられます。

そこで子ども達の体験活動を充実させるため、また学校や地域の教育力を充実させていくためにも、自然体験活動の指導者養成事業は各方面で効果が期待されています。

II 事業の概要

1. 趣 旨

青少年教育施設や地域等で行われる青少年の体験活動が安全・安心に、かつ効果的に実施できるよう、体験活動に関する知識・技術を身につけた指導者を育成します。

また、本研修を終了した者は、小・中学校等の集団宿泊活動が円滑に行われるように、教員等を補助する指導者として、文部科学省が推進する「自然体験活動補助指導者」に登録するとともに、静岡県「青少年指導者」として登録します。

今年度実施してきた、自然体験活動補助指導者養成研修及び、全体指導者養成研修の内容をもとに、体験を通じた学びをさらに促進させるファシリテーションのスキルを身につけます。

2. 参加者

(1) 対象・募集人数

全体指導者：青少年・学校教育関係者，その他自然体験活動に興味・関心のある者で、自然体験指導者として登録の意志のある者 30 名

フォローアップ研修：補助指導者（ボランティア）養成研修，全体指導者養成研修の受講者，交流の家ボランティア登録者 20 名

(2) 参加状況

全体指導者 24 人
（男 19 人・女 5 人）
フォローアップ 9 人
（男 9 人）

	全体	フォローアップ
学校教員	1	
青少年教育施設	5	
民間企業	5	5
大学生	4	1
行政職員	3	1
その他	6	2

(3) 広報の方法

- ① 募集チラシの作成 (資料 1)
- ② 地元新聞社に掲載依頼
- ③ 静岡県内各教育委員会, 及び県内全高等学校, 静岡・千葉・神奈川・山梨県・東京都の各大学に送付
- ④ 御殿場市近隣大学 (富士常葉大・日大三島・静岡県立大学) の窓口へ直接依頼
- ⑤ 補助指導者研修受講者, 施設ボランティア登録者に送付

3. 日程 (全体指導者)

3日 (木)	10:10	10:20	11:50	13:30	17:00	18:30	20:00
	開講式 オリエンテーション	教育課程と 体験活動	昼 食	体験活動の指導 ーカウンセリングの基礎ー	夕 食	レクリエーション の指導	
4日 (金)	9:00	10:30	14:00	14:30	20:30		
	学校教育における 体験活動の意義	野外炊事と指導者の基礎 的なスキル	休 憩	プログラムの企画・立案 (途中, 夕食)			
5日 (土)	9:00	12:00	13:00	14:30	14:50		
	安全管理と応急処置	昼 食	まとめQ&A ガイダンス	閉講式	(解散)		

(フォローアップ)

3日 (土)	10:10	10:20	12:00	13:00	17:00	18:30	20:00
	開講式 オリエンテーション	実習①	昼食	実習②	実習③	夕 食	講義④
4日 (日)	9:00	12:00	13:00	14:30	15:00		
	講義⑤	昼 食	講義⑥	閉講式	解散		

4. 内 容 (活動の様子)

(1) 「教育課程と体験活動」(講義) 講師: 都留文科大学教授 高田 研 氏

学習指導要領における集団宿泊活動の位置づけについて, 説明をしていただいた。宿泊活動のプログラムの一部を各教科に位置づけて実施することが可能であり, 時数の確保だけでなく, 学力向上にもつなげられる。

(2) 「カウンセリングの基礎」(講義・演習) 講師: 鶴見大学教授 吉村 順子 氏

相談者との信頼関係を築くため, 話を聞くときに留意すべきことは, わずかの時間であったとしても, すべての関心を相談者に傾けることである。また聞く態勢として, 自分がリラックスしている, 相手に体を向けている, 自分の意見を言おうとしないことが必要である。

(3) 「レクリエーションの指導」(実習)

講師: 遊心研究所 所長 遠藤 秀秋 氏

ジャンケンでのいろいろなレクリエーションや, ひとつのレクリエーションでも工夫しだいで幾通りもの楽しみ方につなげられることを, 紹介していただいた。



レクリエーションはお互いが心を開くこと、そのためにまず、指導者が心を開いて指導にあたることが大切である。

- (4)「学校教育における体験活動の意義」(講義) 講師：國學院大学教授 宮川 八岐 氏
これまでの体験は、教科学習の中で1つの手だてとして行われてきたが、これからは体験そのものが目的となる。

体験が学びの出発点であり、五感を通して対象を知る体験的な活動が、子どもの思考を活性化させ、学ぶことの喜びや意欲づけとなる。

- (5)「野外炊事と指導者の基礎的なスキル」(実習) 講師：国立中央青少年交流の家 職員
指導者として、相手に「つたえる」という場面で配慮すべき、話し方や話を聞く側の姿勢や体制、また指導者の立つ位置や服装などについて説明した。

また、野外炊事を実施するうえでの注意事項や、用具の管理方法や使用方法について説明した。

- (6)「プログラムの企画立案」(講義・演習) 講師：日本キャンプ協会 高瀬 宏樹 氏
指導者として、ねらいや目的にそったプログラムの企画立案するためには、プログラム全体の流れ(ストーリー)が大切となる。

御殿場市の小学校5年生が、2泊3日の宿泊体験活動を中央交流の家で行うと仮定して、グループごとにプログラムの内容について企画立案をし、その後プレゼンテーションを行った。

- (7)「安全管理と応急処置」(講義・演習) 講師：国立中央青少年交流の家 職員

体験活動においてリスクを無くすることはできないので、リスクマネジメントにより、リスクの察知と対処策を講じ、ダメージを減らすことの大切さを伝える。過去に教育施設で実際に発生した実例を参考に、原因と対処方法について説明した。

体験活動中に発生しやすい疾病について、初期の応急処置の方法について演習を行った。

- (8)「フォローアップ研修」(講義・実習) 講師：プロジェクトアドベンチャー ジャパン
トレーナー 杉村 厚子 氏

アイスブレイクやウォーミングアップ、コミュニケーション活動を通し、心の安全、信頼関係と安心感がどのように芽生えてくるのか実際に体験した。

「ビーイング」により自分たちの活動目標、約束事を模造紙に書き出した。活動の振り返り場面では、その都度この模造紙を中心に自分たちの活動を見つめ直し、次の活動へ役立てた。

ファシリテーターの果たす役割とは、みんなが活動をしている場面での、小さな出来事、小さな一言を見逃さずに観察することである。振り返りの場面では、みんなが気づかずに進んでしまいそうな時、もう一度聞き直したり、説明を求めたり議論が展開できるように導くことである。

5. 評価

別紙(アンケート集計結)

- ・参加者に対して、情報の収集手段や実施時期、開催期間についてのアンケート調査を実施した。
- ・研修会全体を通しての満足度については、24人中、17人が「満足である」5人が「やや満足」と回答していた。
- ・またこれからの研修に望むこととしては、「実際に指導者として指導にあたる研修」、「実際の全体指導者としての実践事例報告」などを希望する声が寄せられた。

Ⅲ 事業の企画と運営

1. 企画のポイント

- ・これまでに子ども達と関わりの少ない参加者にとって、実際に子ども達と接する上で、注意すべき事や、また子どもの状況の変化を読み取り、どのように対処すべきか大きな課題となる。そこでカウンセリングの基礎となる講座を企画しました。
- ・体験活動の場面だけでなく、日々の活動では火傷やねんざ、虫さされなどの傷病が発生しやすい。そこで、軽度な疾病についての応急処置の方法について、実習を企画した。

2. 運営のポイント

- ・参加者がゆとりを持って講義に臨むことができるように、また休憩時間に有意義な情報交換が進められるように、時間と環境作りに配慮した。
- ・各グループが作成した資料は、廊下の壁や机を利用して、参加者全員の目に触れることができるよう資料を提示した。

3. 成果

- ・受講者の内、17名が全体指導者、4名が補助指導者として登録をすることができた。
- ・大学生から青少年教育関係者から一般の方、環境教育に携わる方など、様々な分野で活動している方の参加を得て、話題豊富な情報の交換とともに、技術指導面での意見交換も実施された。

4. 今後の課題

- ・受講生が研修に期待している内容について、事前にアンケート調査し講師と連携を図ることで、さらに内容を深めていきたい。
- ・2泊3日での実施であったが、1日が祝日の間の平日となったため、社会人の方には参加しにくい日程となった。3連休等を利用した日程にすることで、社会人も参加しやすい日程になると考えられる。

4. 参考資料

- ①募集チラシ
- ②アンケート結果
- ③実施案

担当：佐粧和也，小松信雅，長谷川大地